

令和 5 年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

3

福岡県立育徳館高等学校

自己評価					
学校運営計画(4月)				評価(総合)	
学校運営方針	育徳館の歴史と伝統を礎にして、次世代を担う「徳」「知」「体」のバランスのとれた人材(次世代のリーダー)の育成に努める。			A	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
成果 ○AL指数や態度目標等の指標を活用した授業改善 ○家庭や関係機関との積極的な連携による生徒支援 ○進路実現につながる個に応じた学習支援 ○教育活動におけるICTの積極的な活用 課題 ○観点別評価の推進及びICTを活用した学びの深化 ○学校運営での生徒の主体性を尊重した自立心の育成 ○中高6年間を見通した体系的な進路指導計画の策定 ○中学生や地域に向けた本校教育活動の積極的な情報発信及び広報活動の充実	学問的な深まりのある授業を通して、主体的・協働的に課題を発見し解決する力を身につけさせる。	グローバル人材育成を目指し、全校生徒による英語検定受験により英語教育の充実を図る。 ICT活用や評価に関する研修を継続し、魅力のある授業や適切な観点別評価により生徒の学ぶ意欲の向上を図る。			
	生徒会活動の活性化、部活動加入を奨励し、活力ある全人教育を行う。	生徒主体、全員参加の学校行事を実施し、生徒の自律性、自尊感情、自己効力感を高める。			
	人権意識の涵養と生徒の人格を尊重した学校作りを進める。	全ての教育活動において共感する心の育成、多様性や他者の尊重、自己責任を重んずる態度を育てる。			
	本校が地域から求められているものを見極め、進路学習の体系化を確立し、進路実績を向上させる。	自己の能力や適性を的確に判断し、主体的に進路決定ができるキャリア教育を進める。 学校教育全体を通してより高い進路目標の設定と実現に向けた能力を育成する。			
	働きやすく働きがいのある職場づくりを行う。	校務支援システムの運用やICT化により働き方改革を進め、授業改善や生徒と向き合う時間を確保する。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
教務部	指導と評価の一体化をし、生徒の学ぶ意欲を高め、生徒の学校生活満足度の向上を図る。	生徒の興味・関心を引き出す授業を通して生徒の思考力や自己肯定感を育む。 個人面談週間や生徒情報交換会等の内容を共有し、生徒理解に取り組む。	B B	B	・複数学年合同での授業、チューター制度などの中高一貫校の特色ある教育活動、中高の複数学年相互での総合的な探究の時間の交流(例:育徳プラン発表会)等の計画 ・公開授業の目的を焦点化と効果的な広報活動 ・会議等におけるChromebookの積極的な活用によるペーパーレスの推進
	AL型授業を推進し、ICTを活用した授業を計画して運営する。	ALやICTに関する研修を充実させて公開授業等を実施する。 新たな学びプロジェクト・ワンヘルス教育に関する授業を実践する。	A B		
	生徒及び職員が、あらゆる場面で日常的にICTを活用する姿を実現する。	スタサブ等の学習支援ツールを、授業・課外・朝学習・休業中の課題等で生かし、学力向上につなげる。 Googleclassroom、職員用ポータル共有フォルダの活用を通して職員の業務効率化、ペーパーレスを推進する。	B B		
生徒部	生徒の主体性を尊重する生徒指導体制を確立する。いじめの未然防止・早期発見など積極的な生徒支援を行う。	自ら発信でき、主体的に取り組むことのできる生徒会役員を育成し、行事などの主体性を引き出す。 職員間や関係機関などと、情報交換などの連携を強化し生徒支援体制を確立する。	B A	A	・部活動再編についての継続的な見直し ・生徒会を中心とした校則の継続的な見直し ・養護教諭やSC、学年との連携による生徒支援の充実 ・危機管理マニュアルの周知・活用および継続的な見直し
	生徒の美化意識の向上 安心・安全な学校と生徒の愛校心の醸成	学期に1回の美化コンクールを実施する。 地域清掃活動を通して学校や地域を愛する心を育てる。	B B		
	人権教育や道徳教育を計画的に実施し、互いの人権や人格を尊重する態度を育てる。	人権教育指導力向上のため、職員研修を実施する。 修学を保障するために奨学金制度を周知して、手続きを支援する。	A A		
進路部	入試改革・入試動向を踏まえた進路指導の充実 希望進路の実現に向けた実態把握と基礎学力の向上	高大接続に係る入試動向の情報共有、共通理解を進める。 入試改革を踏まえた進路指導を計画・実施する。 校外模試等(中高)の分析を学年・教科で定期的に行い、事前事後の指導を充実させる。	A B B	A	・6年間を見通した中高各学年の具体的な進路指導及び総合的な探究の時間の適正な運用と情報共有 ・各行事の振り返り、キャリア指導の育成を図る「ポートフォリオ」の運用 ・自己啓発、進路意識の向上につながる校外体験活動への積極的な参加奨励
	組織的なキャリア教育の推進 次世代リーダーに求められる資質の向上への支援体制の推進	中高6年間のキャリア教育実施状況を検証し内容の精選を図る。 活動記録の蓄積および学習体験の振り返りを定期的に行い実施する。 県教委等が主催するセミナーやコンクールの積極的な参加を奨励する。□	B A A		
	本校の魅力発信する広報活動を積極的に推進し、PTAや同窓会との連携を図り、本校のイメージアップを目指す。	体験入学やICTを活用した掲示物等を通じたPR活動を積極的に行い、効果的な生徒募集を行う。 PTAや同窓会との積極的な連携を図り、魅力ある教育活動を充実させ、積極的に発信する。	B B		
育徳創造部	生徒が安心・安全に寮生活を送ることができるための寮運営を行う。	計画的な舎監業務を行うとともに、指導を徹底する。 生徒の寮生活の実態を把握し、環境整備を図る。	A A	A	・生徒募集を意識した地域住民や中学生への魅力的な広報物の作成 ・同窓会、PTAとの連携及び各行事への積極的な参加 ・適正な寮運営の継続および施設面での整備
	豊かな感性を育むための図書教育の推進、および芸術文化活動の内容充実を図る。	定期的に選書委員会を実施し、優良図書を選定して、生徒の読書活動の推進を図る。 芸術鑑賞などさまざまな文化活動を充実させ、情緒豊かな生徒を育む。	A A		
	主体的に進路目標を設定し、その実現に向けてひたむきに取り組むことができる生徒を育成する。	進路探究学習を通して適切な進路目標設定の支援を行う。 行事での生徒の活躍の場を設け、主体的に行動できるリーダーシップを育成する。	B A		
1学年	基本的な生活習慣を確立させ、自ら気づき、考え、行動できる生徒を育成する。	他者や周囲への配慮を適切に行い、互助精神を持った生徒を育成する。 広い視野を持ち、意欲的に進路選択を考える態度を育成する。	A B	B	・総探における話し合い活動を通して、自身の進路について考えることができた。次年度は責任持って進路を選択し、実現する積極的な態度を育成する。 ・入試へ向けた主体的な学習を喚起し、志望校の決定、進路目標に対する意識の向上に努める。 ・積極的に校外体験活動に参加させたり、個人面談の時間を確保して進路指導の充実を図る。
2学年	志望校決定、進路目標設定に関する意識の高揚を促し、入試研究などを通して主体的学習意欲を喚起する。	模試の事前事後指導を通して自己分析能力を身につけさせる。 個人面談を通して、生徒の意識の変化や進路希望の動向を把握する。	B A		
3学年	生徒が安心安全に学校生活を送れるよう教育環境を整備する。	校内巡視を定期的に行い施設・設備を適切に維持管理する。 現金取り扱いを削減しつつ、私費会計の適正な管理に努める。	B B		

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A : 適切である
	B : 概ね適切である
	C : やや適切である
	D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
B	ICT機器の授業での活用を進めている状況から、今後も生徒が興味・関心をさらに深めながら学ぶことができる工夫を継続してほしい。
A	生徒の安全・安心な学校生活のために生徒支援の充実を図るとともに、部活動による地域イベントへの参加も地域の活性化に繋がることを期待している。
A	卒業後の進路について地元での社会貢献を考えるだけでなく、国内・国外を問わず視野を広げたいと考えている生徒が多いことも評価できる。広く体験活動への参加を奨励することに賛成である。
A	生徒募集では学校ホームページの更新を含め、広報活動をさらに充実させることが必要である。部活動をはじめ、生徒の生き生きとした姿を中学校にアピールする工夫を続けてほしい。
B	高校時代はキャリア形成にとって重要な時期であり、学校生活において学んだことを表現する、他者にアウトプットする機会を増やしてほしい。
B	学校施設について予算に応じながら今後も適切に維持管理に努めてほしい。
評価項目以外のものに関する意見	
なし	

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・ 中高6年間の学びを踏まえ、ICT活用の工夫及び指導と評価の一体化を図りながら充実した教育活動を展開する。
- ・ 部活動のあり方について運営の抜本的改善を通してさらなる活性化を図る。
- ・ 本校の目標であるグローバル人材の育成に向けて、体験活動への参加を奨励し、英語検定の受験や海外修学旅行を実施する。
- ・ みやこ町の教育・文化・スポーツ活動に積極的に参加し、地域に貢献できる生徒の育成を継続する。
- ・ 情報発信力を高めて、本校の教育活動の魅力を広く伝えるためのPR活動を充実させる。